

YMCA 活動報告ブックレット

ANNUAL REPORT 2018-2019



ごあいさつ

地域からの理解と信頼をめざして

2018年度、盛岡YMCAは、ブランディングを有効に活用し、盛岡YMCAが社会の課題に取り組む団体であることを地域に発信し、計画的かつ地道で誠実な活動を通して地域からの理解と信頼を得ることを目標に、以下の6つの領域において、アクションプランを作成し行動してきました。

1 YOUTH EMPOWERMENT 地域に生きることもだち、青少年のために

未来を創る青少年を育成してきたYMCAの原点に立ち返り、ユースリーダーの育成に努め、100名を超える学生がボランティアとして登録し、盛岡YMCAの行う様々なプログラムの担い手として活躍しました。また、全国YMCA大会、全国リーダー研修会、ユースリーダーズフォーラム、インド・スタディキャンプなどへ多くのユースリーダーを派遣することができました。

2 HEALTHY LIVING 地域の人々の健康な生活を育むために

シルバー世代を対象として「すばるクラブ」の活動を6回開催し、学生リーダーとシルバー世代との交流を図ることができました。

3 SOCIAL RESPONSIBILITY 人と人、人と地域がつながるために

ユース委員会を中心にいじめの問題に積極的に取り組み、2月にはピンクシャツデーの運動を盛岡YMCAの行う全てのプログラムに参加することもたち、家族また関係する諸団体の協力を得て推進することができました。

4 MANAGEMENT 盛岡YMCAのマネジメントを強化し、確立する

職員、役員、ユースリーダーが一同に集う、盛岡YMCA大会を開催することができました。このことにより、ミッション実現のための会員運動体であることを皆で共有することができました。

5 MEMBERSHIP BY DESIGN 会員運動体としてのYMCA作り

第2回盛岡YMCA国際・チャリティーランに盛岡YMCAが運営する学童保育「ふれいむ・たいむ」の子どもたちやその家族の方々がランナーとして参加するなど、盛岡YMCAの行う活動に参加するメンバーが増えてきました。

6 BRANDING ブランディングを推進し、地域からの理解と協力を得る

全国のYMCAが推進するブランディングを全ての活動を通して積極的に推進することができました。今後は、ブランドビジョンである「ポジティブネットのある豊かな社会の創造」、ブランドスローガンである「みつかる。つながる。よくなっていく。」を盛岡YMCAに関わる全ての人に理解していただき地域に浸透させていくことが課題となります。

盛岡YMCAはYMCAに集う一人ひとりを大切にしつつ、地域や社会の課題に目を向け、その解決に向けて、地域と共に歩んでいく団体を目指しています。これからも皆様からのご協力を心よりお願い申し上げます。

理事長 魚住英昭
常議員会議長 井上修三
総主事 濱塚有史

みつかる。つながる。よくなっていく。

2019年度 基本聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章15節。

2019年度 運営方針

2019年度、盛岡YMCAは「ポジティブネットのある社会」を実現するため以下3つの事業方針を定め10の事業計画に基づいたアクションを開始します。

I.YMCA経験者を増やす

盛岡のYMCAの使命を日々の働きの中で具体的に実践していくことを通しYMCA理解者、経験者を増やす。このことによりYMCAの伝えたい価値をより多くの市民に伝える

II.YMCAをより深く、長く経験してもらう

プログラムの参加者並びにその家族に対して盛岡YMCAが伴走者（※3）としてより深く、長く関わっていくことができるように、盛岡YMCAの組織としての伴走力（※4）を強化する。

※3 YMCAとプログラムの参加者との関係を単にサービス提供者、受益者という関係で終わらせることなく、共に「みつかる。つながる。よくなっていく。」ことでポジティブネットのある豊かな社会を創造する市民として成長していけるよう、YMCAがこども、家族の伴走者、パートナーとしてより深く、長く関わっていける関係性を築くこと。

※4 伴走者として関わりは、YMCAは古くから行ってきたことであるが、これまでは、関わる個人の努力に依拠することが多かった。これを研修ならびに運営する仕組みを整えることにより、一部の個人の力に依るのではなく、盛岡YMCAに関わる全ての人々がYMCAの一員としてポジティブネット社会の実現に向けて力を発揮できるように組織としての伴走力を構築していくこと。

III.盛岡YMCAをよくする。盛岡YMCAのビジョンを立てる。

盛岡YMCAの課題を整理、改善するとともに盛岡YMCAの中期計画を策定し、盛岡YMCAの今後すすむべき方向性を定める。

I | 活動報告

1 中高生キャンプ

9月15日(土)～17日(月・祝)、秋田県仙北市の田沢湖キャンプ場で2泊3日の中高生キャンプが開催されました。中高生キャンプは、盛岡YMCAユース委員会が企画したプログラムであり、中高生にとっての居場所、目標作りの場、仲間との出会いの場、自分と相手への気づき・認め合いを大切にする場となることを目的として行いました。今回は、男子3名、女子3名の計6名の高校生が参加しました。1日目は自然の中でのテント泊、野外料理、2日目は、場所を変えて「人間関係トレーニング」を行いました。スタッフや大学生リーダーと共に過ごした2泊3日のキャンプを通して、参加した高校生は、一人一人の違いを認識し、違いを超えて仲間になっていくことの喜び、大切さを強く感じた様子でした。



2 第2回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン

9月23日(祝) 岩手県立大学陸上競技場を会場とし、第2回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーランが開催されました。この大会は障がいのある人も障がいのない人も、違いを超えてつながる真の豊かな社会を目指し全国のYMCAで開催されています。第2回となる盛岡での大会は「知ってもらい、来てもらい、感じてもらい、考えてもらう」をテーマに、ランの他にも様々なイベント、体験コーナーも開設されました。

- 寄付をいただいた企業数 53社
- 寄付をいただいた個人 23人
- 当日のボランティア数 109人
- 参加いただいたタスキリレーチーム 32チーム
- 参加いただいたランナーの数 156人
- 来場者数 131人



3 国際協力募金

11月23日(祝) 盛岡市の大通りを中心に、国際協力街頭募金が行われました。YMCAのプログラムに参加している子どもたち、ユースボランティアリーダー、高校生、もりおかワイズメンズクラブの皆さん、職員等総勢63名が街頭にたち市民に協力を呼びかけました。

今回の街頭募金で集まった額は、184,047円となり、益金は、日本YMCA同盟を通して

- 1.カンボジアYMCAこども支援
- 2.ネパール地震被災地支援
- 3.東エルサレムYMCA パレスチナ難民支援

等のために使われます。



4 ピンクシャツデー

ピンクシャツデーは2007年、カナダの学生2名から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入し周りの学生たちによびかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を持って登校。校中がピンクに染まり、いじめが自然となくなったそうです。カナダではこの出来事があった日が2月の最終水曜日だったことから、この日をいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。全国YMCAでこの運動に取りくんでいますが、盛岡YMCAでは、放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ」やサッカー、水泳等に参加する子ども達や、関係する諸団体に協力を呼びかけました。



ピンクシャツデーに協力する宮古サッカースクールの子どもたち

5 ピンクシャツデー特別企画「今を楽しむには」

2月24日(日) 岩手大学准教授の佐々木全先生を講師にお招きし、ラグビーを通じた体験講座を開催しました。

スポーツによる自然なコミュニケーションの中で人とコミュニケーションをとる楽しさ、大切さを知ってもらうことを目的に、当日は高校生、学生ボランティアリーダー等27名が参加しました。



6 「若者×SDGs×地域」

岩手県国際交流協会と共催の国際理解ワークショップ「若者×SDGs×地域」が3月20日岩手県情報交流センターで開催されました。認定NPO法人開発教育協会代表理事 上條直美氏を講師にワークショップ形式で行われたこの会には、市内の高校生、大学生、YMCAのボランティアリーダーの学生など、約40名が参加しました。



II | ユース・エンパワーメント

YMCAでは、ユースが権利主体として自分の内なるパワーやさらなる可能性に気づき、主体的に行動していくこと、そのためのプロセスを「ユース・エンパワーメント」と呼びます。「ユース・エンパワーメント」の先には、ユース自身の「より良い人生」、そしてポジティブネットのある社会/公正で平和な社会の実現があります。

「ユース・エンパワーメント」の土台となるのは、「ユースをとりまく人とのつながり」と「ユースの参画を後押しする仕組み・制度づくり」です。

「ユースをとりまく人とのつながり」には、ユースとともに歩むシニアの存在や、ユース同士のネットワーク、プログラムに参加してくる子どもたちやその家族などさまざまな人がいます。そして相互のコミュニケーション、学び合い、話し合いがそのつながりをより強く深いものにしていきます。

「ユースの参画を後押しする仕組み・制度づくり」には、多様な背景を持つユースが安心して過ごしたり、ユースが求めるスキルを学んだり、自分たちの声をあげることのできる場づくりが含まれます。

盛岡YMCAには盛岡大学、岩手県立大学、岩手大学等100名を超える大学生がボランティア登録を行い、盛岡YMCAの行う様々なプログラムに参画しています。こうした若者とエンパワーメントするため2018年度以下の取り組みを行いました。

1 新入生 ユース・リーダー歓迎会

4月15日(日)日本基督教団内丸教会の会堂をお借りして、盛岡YMCAリーダー会主催の、新入生の歓迎会が行われました。盛岡大学、岩手県立大学、岩手大学等60名を超える新入生が多数参加しました。

2 リーダートレーニング

サマーキャンプ、スキーキャンプ、盛岡YMCAの行う様々なプログラムで子ども達を指導するあたり、以下のトレーニングを開催しました。



日程	内容	講師	参加者人数
6月6日	レクリエーション入門	武田悠(盛岡YMCA職員)	27名
6月9日	救急法	盛岡市中央消防署職員	14名
6月11日	人間関係トレーニング	浅沼慧(盛岡YMCA職員)	29名
6月14日	YMCA理解	濱塚有史(盛岡YMCA総主事)	31名
6月21日	キリスト教理解	中原真澄(日本基督教団内丸教会牧師)	28名
6月25日	対象理解	向平悟(盛岡YMCA職員)	30名
6月28日	発達障がい児理解	家村知佳(盛岡YMCA職員)	29名
6月30日	食中毒理解	東野真理子(管理栄養士)	23名
7月9日	ボランティア論	東森聡(盛岡YMCA職員)	26名
7月12日	安全理解	小川嘉文(盛岡YMCA職員)	23名
7月22日	グループワーク	伊藤真太郎(盛岡YMCA職員)	27名
10月27日	SDGsとYMCA	島田茂(元日本YMCA同盟総主事)	26名
11月4日	学校教育とYMCA	濱塚直樹(仙台市小学校教員)	29名
11月8日	盛岡YMCAに集うこと	末廣光輝(Rashiku株式会社・代表取締役)	30名
11月15日	YMCAが社会に伝える価値とリーダーの役割	坂本孝司(神戸YMCA職員)	30名
11月30日	キャンプソングとその重要性	衣笠輝夫(埼玉YMCA理事)	17名
12月3日	若者の持つ力と生きる力	青山鉄兵(文教大学人間科学部准教授)	24名
12月6日	スキー技術&指導	伊藤真太郎(盛岡YMCA職員)	28名
12月23、24日	スキー1泊リーダートレーニング	伊藤真太郎、浅沼慧、家村知佳、他	27名

3 福島スタディツアー

9月5日(水)から9月6日(木)盛岡YMCAのユース・リーダーを対象に福島スタディツアーが開催され7名のユース・リーダーが参加しました。目的は、

- ① 福島の被災地や被災者の方々の想いを知り、様々な価値観に触れることで、震災を「肌で感じる」
- ② 福島スタディツアーでの体験をリーダー自身の言葉でリーダー間、スタッフ職員、ワイズメンズの方々、家族に伝えられるようにする。

参加したリーダーは、ツアー終了後、報告書を作成し報告会を開催しました。



4 ユースボランティアフォーラムにユース・リーダーを派遣しました。



9月7日(金)～9日(日)、東京YMCA山中湖センターで開催された、第31回ユースボランティアフォーラムに参加してきました。盛岡YMCAからは、ユース・リーダー2名、スタッフ1名が参加しました。「今、ユース・ボランティアリーダーに求められるもの」について、他のYMCAリーダーと共に考えてきました。

他のYMCAの活動やリーダーの姿を見たり、講演会や話し合いを通して、盛岡YMCAや自分の現状や将来について深く考えることができました。

盛岡YMCAはまだまだ大きくはありませんが、その中でも人と人との関わりを大切に、共に成長するという貴重な機会を提供できるYMCAであることは、誇りに思えることだと自信に繋がりました。今回得た自信や発見を盛岡のリーダーや活動、盛岡YMCA全体に還元できるように精一杯活動に取り組んでいきたいと思っています。

岩手大学理工学部2年 鈴木凜奈(つくしリーダー)

5 第49回 全国YMCAリーダー研修会にユース・リーダーを派遣しました。

10月6日(土)～8日(月)宮城県蔵王ドック沼で開催された全国YMCAリーダー研修会に盛岡YMCAからは、ユース・リーダー5名、スタッフ1名が参加しました。全国各地の仲間たちと様々な話ができて、とても充実した時間となりました。研修会に参加するまでは自分の中で葛藤を抱えていましたが、研修会の中で、「自分の成長と全体の成長を一緒にできないの?」という言葉に出会い、自分の葛藤が二者択一でないことに気づきました。自分が参加する活動だけでも、意識すれば全体に何かを還元することは可能であるということです。これからは、たくさんの人と手を取り合って、一緒に泣いて、失敗して成功して、成長していこうと思います。

岩手大学教育学部2年 笹川大地(ラフリーダー)



II | ユース・エンパワーメント

6 第20回日本YMCA大会にユース・リーダーを派遣しました。



11月23日(祝)～25日(月) 静岡県御殿場市にある国際青少年センター東山荘で開催された第20回日本YMCA大会に盛岡YMCAから3名のスタッフと9名のユース・リーダーが参加しました。「すべてのYがつながる日」と題し、ユース世代だけでなくいつもは話す機会が少ないシニア世代とも、グループワークやテーマ別セッションを通し、多くの人と繋がることができた3日間でした。

岩手大学教育学部2年 前田隼輔(ガルベスリーダー)

7 第23回学生YMCA インド・スタディキャンプにユース・リーダーを派遣しました。

2月24日(月)から3月8日(金)まで期間、主に南インドを訪問してきました。全国から10名の学生が集まりました。盛岡からは私を含め2名の参加です。キャンプでは、南インドの都市部であるバンガロールやチェンナイ、農村部であるカニヤクマリなどを訪れ、南インドが抱える実情を実際に目にする事ができました。

岩手大学教育学部3年 尾河芽生(ピリケンリーダー)
// 東彩由海(マックスリーダー)



8 ユース・リーダーが中心となって企画、実施する「サンディスクール」

盛岡YMCAには、ユース・リーダーが企画、募集、実施までを中心に行う、サンディスクールというプログラムがあります。今年度も以下のプログラムが行われました。このプログラムの益金は、全て、盛岡YMCAのユース・リーダーの研修費用に使われます。



日程	内容	参加者数	ユース・リーダー人数
5月12日	オリジナルポストカードを作ろう!!	6名	11名
6月23日	シャカシャカ振ってアイスを作ろう!!	16名	12名
10月28日	寿司職人になろう!!	20名	14名
11月25日	オリジナル石鯰を作ろう!!	24名	10名
2月16日	手づくりうどんを作ろう!!	9名	13名
3月10日	凧を作って凧あげをしよう!!	12名	8名

III | 事業報告

1 チャイルドケア事業

盛岡YMCAが行っている放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ」

ぶらいむ・たいむは一時的な預かりの場所ではなく、異年齢集団の中で遊びや生活を通してお互いが様々な影響を受け、成長しあえる場であると同時に主体的に生活できる力を身につけていく、継続した生活の場です。2018年度は、本町校、前潟センター、向中野センター、盛南センターに合計197名のこどもたちが在籍しました。それぞれ地域の特性に合わせ、ユニークなプログラムに取り組んでいます。

1 本町校 47名が在籍。仁王小、付属小、城南小、山岸小、桜城小の児童が対象。

2 前潟校 34名が在籍。土淵小、大新小の児童が対象。前潟校は、施設の目の前にある河川敷の土手に畑を借りています。



3 向中野校 93名が在籍。向中野小の敷地内に施設があります。向中野小の児童が対象。毎年、チャリティバザーを開催しています。今年は130名が来場し、42,180円の益金がありました。熊本地震被災地支援に充てるため、熊本YMCAに送金しました。

4 盛南校 25名が在籍。2017年に開設した新しい放課後児童クラブです。向中野小、本宮小の児童が対象です。

2 ウェルネス事業

1 サッカースクール

市内7箇所で開催。合計86名が在籍。サッカーを通して、コミュニケーション力・決断力・行動力・責任感・想像力を高めることを目標にしています。

2 水泳教室

盛岡市総合プールで開催。月曜、火曜、水曜、金曜のコースを行いました。合計106名が在籍。水慣れから段階的に習得し、無理なく楽しみながら参加できるようにしています。

3 体育教室

毎週土曜日、仁王地区活動センターで開催。様々な運動を通じて動きを覚え、知性や社会性を育てていきます。9名が在籍。



3 野外活動事業

1 アドベンチャークラブ

定例の野外活動。幼児、小学校低学年を対象とした「こぐまクラス」、小学校高学年を対象とした「カシオペアクラス」シルバー世代を対象とした「すばるクラス」がそれぞれテーマを決めて開催し298名が参加しました。

2 サマーキャンプ

「わんぱくキャンプ」「森の大自然満喫キャンプ」「サッカーキャンプ」「星空満点キャンプ」「北上川大満足キャブ」「島のわくわくキャンプ」6つのキャンプを開催しました。136名の子どもたちが参加しました

3 スキーキャンプ

「スマイルスキーキャンプ」「ジュニアスキーキャンプ」「エンジョイスキーキャンプ」「ジュニアスキーキャンプ」「チャレンジスキーキャンプ」「ダイナミックスキーキャンプ」「日帰りスキー教室」を開催し91名が参加しました。



4 東日本大震災被災地復興支援事業

2011年3月18日から現在に至るまで、活動を続けています。現在は、毎週火曜日の宮古小学校校庭で開催されている、「宮古サッカー教室」定例の野外活動「宮古アドベンチャークラブ」、毎年田沢湖で開催する「おもいっきりサマーキャンプ」が主な活動です。サッカー教室には20名を超える子どもたちが在籍。サマーキャンプには30名の子どもたちが参加しました。



About YMCA

YMCAは1844年、青少年の成長を願ってロンドンで誕生した団体です。
現在では世界119の国と地域に広まり、約5,800万人以上が活動する世界最大規模の非営利団体になりました。

日本のYMCAは1880年(明治13年)に東京YMCAが設立されたのが始まりで、以来、
「精神 spirit」「知性 mind」「身体 body」の調和のとれた成長を大切にして、
職業教育、語学教育、健康教育、野外教育、保育事業、国際交流活動など、幅広く事業展開しています。



世界に目を広げると、およそ119の国と地域で
5,800万人以上の人びとが、私たちとつながっています。

130年を超える歴史を持つ日本のYMCAには、
人びとを惹きつけ続ける魅力があります。
その範囲は全国のあらゆる世代に広がっています。



盛岡YMCA 拠点一覧

本町センター (ふらいむ・たいむ本町校)
〒020-0015 岩手県盛岡市本町通3-1-1

前潟センター (ふらいむ・たいむ前潟校)
〒020-0148 岩手県盛岡市前潟1-5-31

YMCA向中野センター (ふらいむ・たいむ向中野校)
〒020-0851 岩手県盛岡市向中野2丁目39-6

YMCA盛南センター (ふらいむ・たいむ盛南校)
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮2丁目3-25

YMCAとは

世界119の国と地域でおよそ5800万人の会員が活動している国際的非営利団体 (NGO/NPO) です。

日本のYMCAは、全国35都市、200を超える拠点で14万人が参加し、自らの学びや健康、社会課題を解決するためのさまざまな活動を行っています。

盛岡YMCAは1983年に創立され、36年目を迎えました。現在盛岡市に4ヶ所の活動拠点で活動を展開しています。

あらゆる年代・性別・宗教の人びとと「お互いを認め合い、高め合うポジティブネットのある豊かな社会を創る」ことを目標としています。

盛岡YMCA

〒020-0015 盛岡市本町通3-1-1 Tel 019-623-1575

<https://www.moriokaymca.org>